

平成28年度ヨコワ情報

平成28年12月28日
鹿児島県水産技術開発センター



1 今年度漁期のヨコワの来遊予測

当センターでは、平成23年度から鹿児島大学水産学部と共同でヨコワの漁獲量予測モデルの開発を行っており、今年度漁期（平成28年12月から平成29年4月）の南薩海域へのヨコワの来遊を、次のように予測しました。

今年度漁期のヨコワ漁獲量は、前年(0.9トン)、平年*(3.5トン)を上回る漁模様となるでしょう。

なお、「太平洋くろまぐろの保存及び管理に関する方針」により30kg未満の小型魚の漁獲については、漁獲管理量が設定されていますので、操業においてはご注意ください。

【※5ヶ年平均(H23-27)】

2 予報の根拠

① 漁獲量予測モデルによる予測値

最大値	16.46 トン
最小値	13.21 トン

② 今年度クロマグロ発生に関する情報

○太平洋発生群に関する情報

平成28年春に沖縄県において漁獲されたクロマグロ親魚の漁獲量は前年を上回り、平年並みとなっています。また、平成28年夏に漁獲されたヨコワ養殖用種苗の漁獲量は、本県は前年・平年を下回っていますが、高知県は前年・平年を上回っています。これらのことから、平成28年の太平洋発生群のヨコワは前年・平年より多いと予想されます。

○日本海発生群に関する情報

平成28年夏に漁獲された日本海クロマグロ親魚の漁獲量は前年・平年並みとなっています。このことから、今年度の日本海発生群のヨコワは前年・平年より多いと予想されます。

○平成28年加入量の予測

国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水産資源研究所が発表した「太平洋クロマグロ2015年生まれ加入量モニタリング速報（第2段階2016年12月）」では、『2016年の日本海生まれおよび南西諸島海域生まれの加入量水準は、いずれも2015年を上回る可能性が高い』と推察しています。

○環境要因に関する情報

ヨコワの漁獲量は南薩・西薩海域の水温が低い時、また、黒潮北縁が離岸している時に増加する傾向が見られます。平成28年11月の南薩・西薩海域の水温は平年並みで黒潮北縁の位置は平年並みから離岸傾向となっていたので、ヨコワの来遊条件としては平年並みから多めと考えられます。

以上の結果と28年の加入量や他県の漁獲状況等を勘案して予想しました。

今後、漁海況週報やホームページ上で発表する水温情報に注目してください。
ヨコワ漁場の水温の目安は、18~20℃の水温帯です。

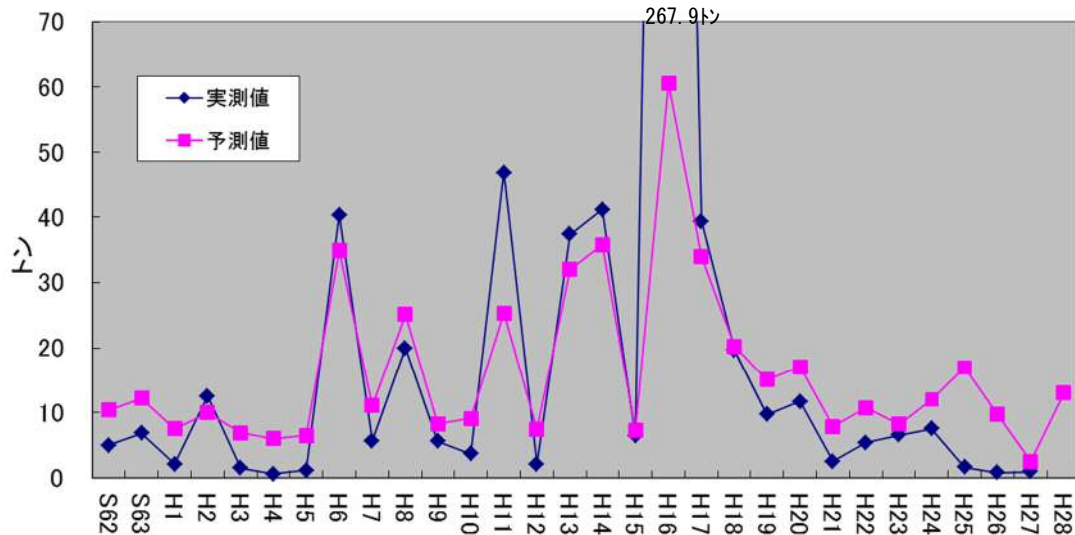
【参考情報】

(1) 統計モデル(サポートベクター回帰)によるヨコワ漁獲量予測

当センターでは平成 23 年度から鹿児島大学水産学部と共同でヨコワの漁獲量予測モデルの開発を行っています。本予測は昭和 62 年からの長崎県ヨコワ漁獲量, 高知県ヨコワ養殖用種苗漁獲量, 沖縄県クロマグロ漁獲量, 日本海まき網船のクロマグロ漁獲量, 本県ヨコワ養殖用種苗漁獲量, 本県前年度のヨコワ漁獲量, 本県カツオ漁獲量及び南薩・西薩海域の水溫, 黒潮の離接岸状況を説明変数として, 統計モデルを用いて予測しています。

H28 年度漁期の漁獲量予測値 13 トン(範囲は 13.21 ~16.46 トン)

(参考: H27 年度漁期予測値 1.7 ~16.9 トン 実測値 0.9 トン)



(2) 現在までの近隣海域のヨコワ情報

① 山口県海域

11月中旬までで、漁獲上限に達したため、操業自粛。

② 長崎県海域

対馬海域では現在、出漁見合わせ。魚影はみえているよう。

③ 高知県海域

夏季の養殖用種苗の採捕尾数は前年・平年を上回った。

④ 鹿児島県沿岸域

12/1~12/21 現在で 121.3kg (前年同月の 237%, 平年同月の 60%)


(3) クロマグロ大型群に関する情報

① 太平洋

沖縄県に平成 28 年春に水揚げされたクロマグロの漁獲量は、前年を上回り・平年並み。

② 日本海

日本海の境港に平成 28 年夏に大中型まき網により水揚げされたクロマグロの漁獲量は、前年・平年並み。

鹿児島県水産技術開発センター	
〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10	
TEL : 0993-27-9212, FAX : 0993-27-9218	
E-mail : suigi@pref.kagoshima.lg.jp	
U R L : http://kagoshima.suigi.jp	
http://kagoshima.suigi.jp/i/ (携帯電話)	
漁海況週報FAX情報サービス	
衛星画像(水温分布図) FAX : 0993-27-9234	
漁海況週報 FAX : 0993-27-9235	